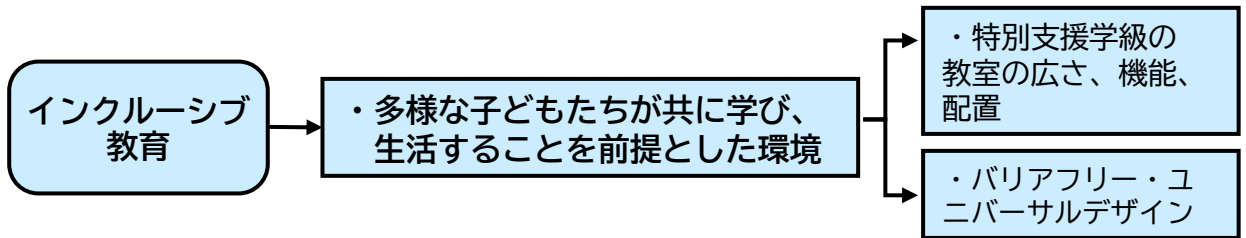


インクルーシブ教育(1)



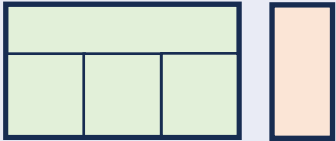
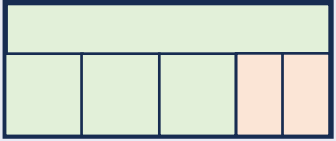
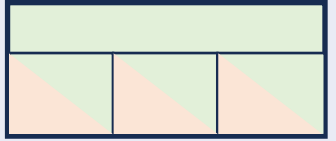
論点 多様な子どもたちが共に学び、生活することを前提とした環境づくり

現状・課題

- ・特別支援学級と通常の学級との交流授業が頻繁に行われている。
- ・支援を要する児童生徒数が増加しており、現状の教室数では対応できない学校がある。
- ・プレイルームやクールダウンスペース等、特性に対応したスペースが不十分。
- ・特別支援教育、インクルーシブ教育のあり方は今後大きく変化することが予想されることから、変化に対応できる施設づくりを進める必要がある。

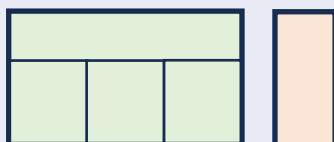
今後の方向性

- ・人数や学級数の増加に対するフレキシビリティの確保
- ・多様な子供たちが共に学び合えるスペースの確保
- ・専門職による支援ができる体制、スペースの確保

方策	方策A	方策B	方策C
導入施設のイメージ	・通常の学級と特別支援学級を分離し、特別支援学級を職員室や保健室等に近接してまとめて配置する	・通常の学級と特別支援学級を近接させて配置する	・通常の学級と特別支援学級を分離せず、一体の教室とする（フルインクルーシブ）
レイアウトイメージ	 通常の学級 特別支援学級	 通常の学級 特別支援学級	 通常の学級＋特別支援学級
メリット・デメリット	○支援がしやすい △交流機会の充実に向けた工夫が必要 △交流時に通常の学級のスペースが不足することがある	○支援がしやすい ○交流機会などが作りやすい △交流時に通常の学級のスペースが不足することがある △各学年に特別支援学級を配置するなどの工夫が必要	○日常的な交流が図れる △インクルーシブ教育の充実に向けた運用の工夫が必要 △各教室を広めに確保する必要がある（全体面積増） △個別の支援や学びのために必要な諸室や設備が必要

インクルーシブ教育(1)

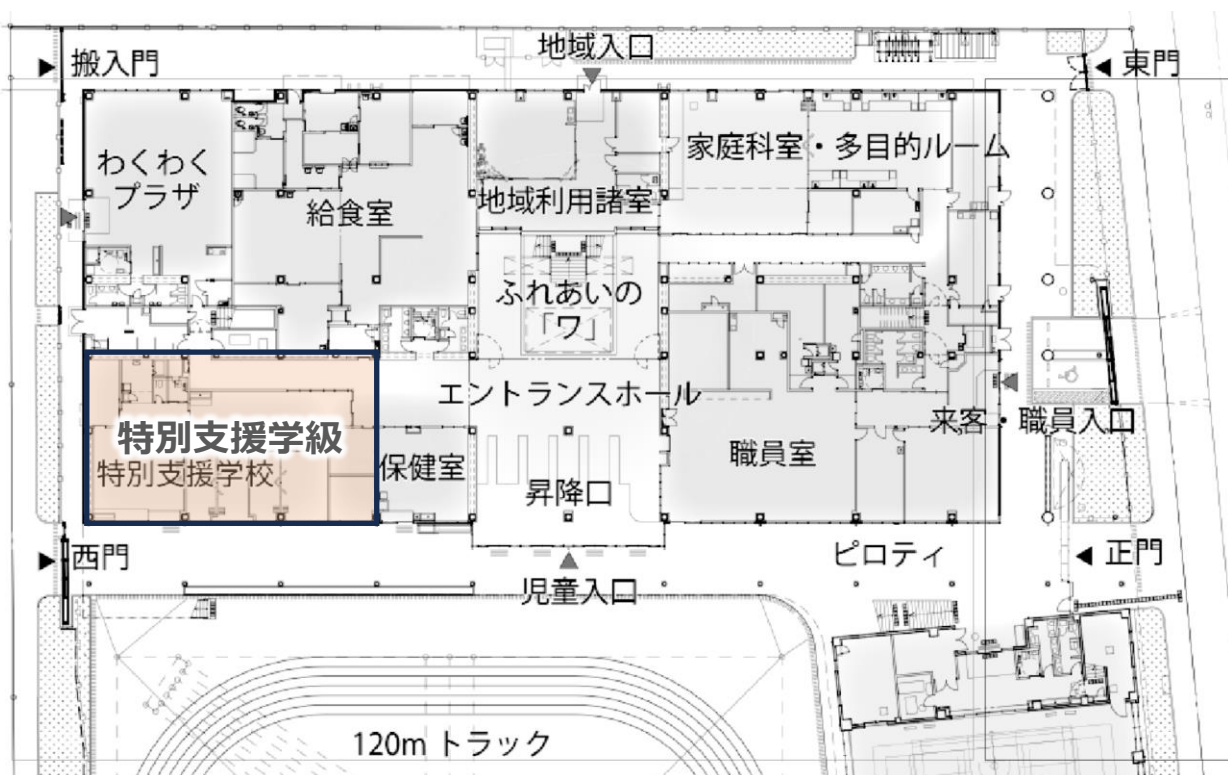
方策Aの事例



通常級の学級

特別支援学級

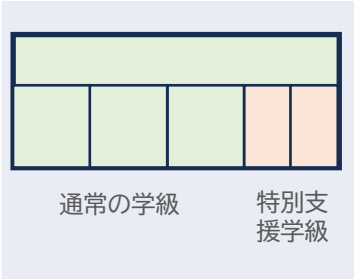
- ・ 特別支援学級が通常の学級とフロアもゾーンも分離されてま
とめられている
- ・ 保健室や職員室等の管理諸室に近く、支援がしやすい



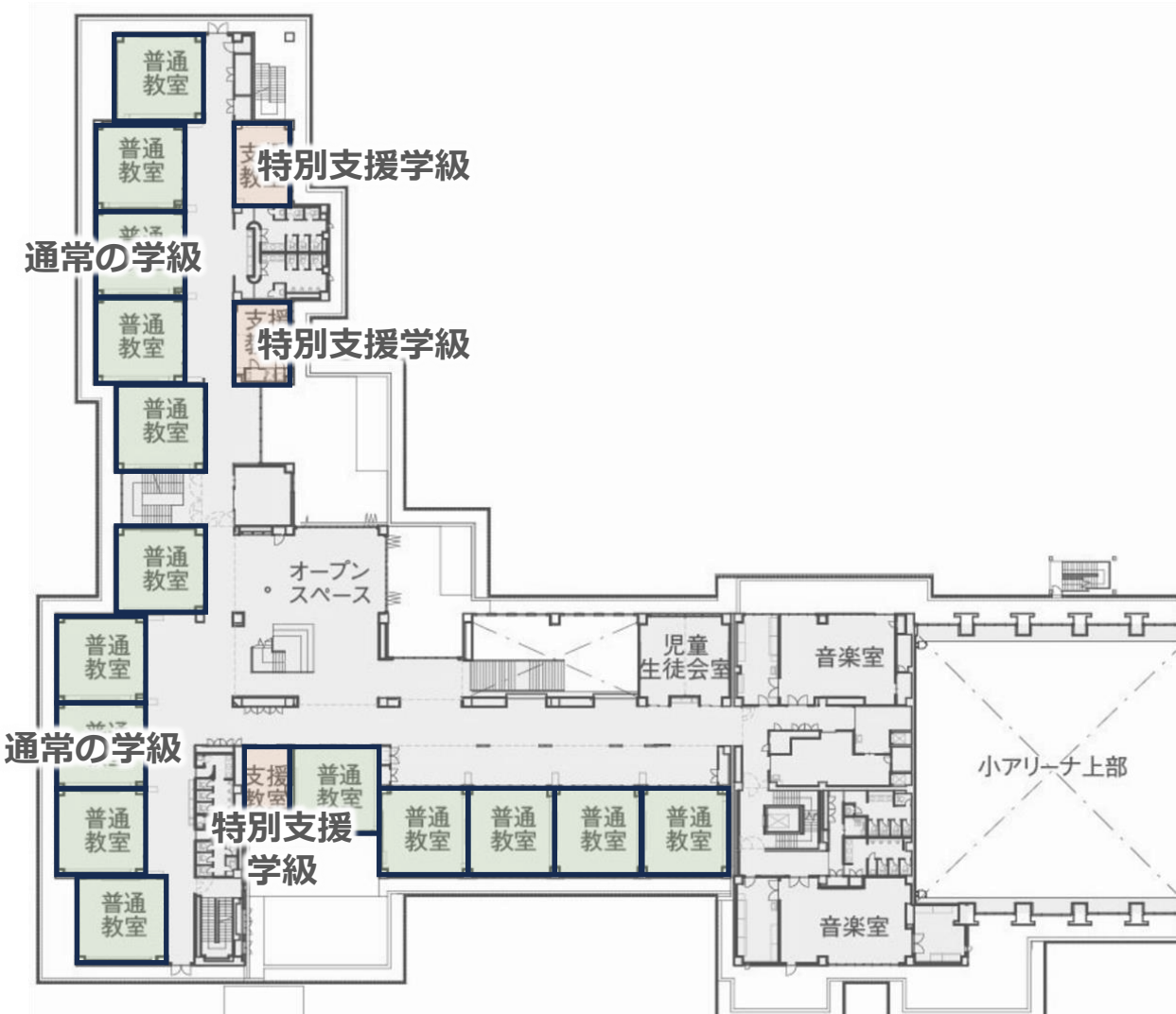
川崎市小杉小学校

インクルーシブ教育（1）

方策Bの事例



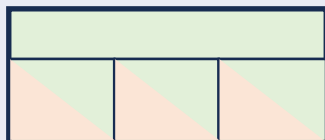
- ・ 特別支援学級が通常の学級のゾーンごとに近接しながらまとめて配置されている



豊中市立庄内さくら学園

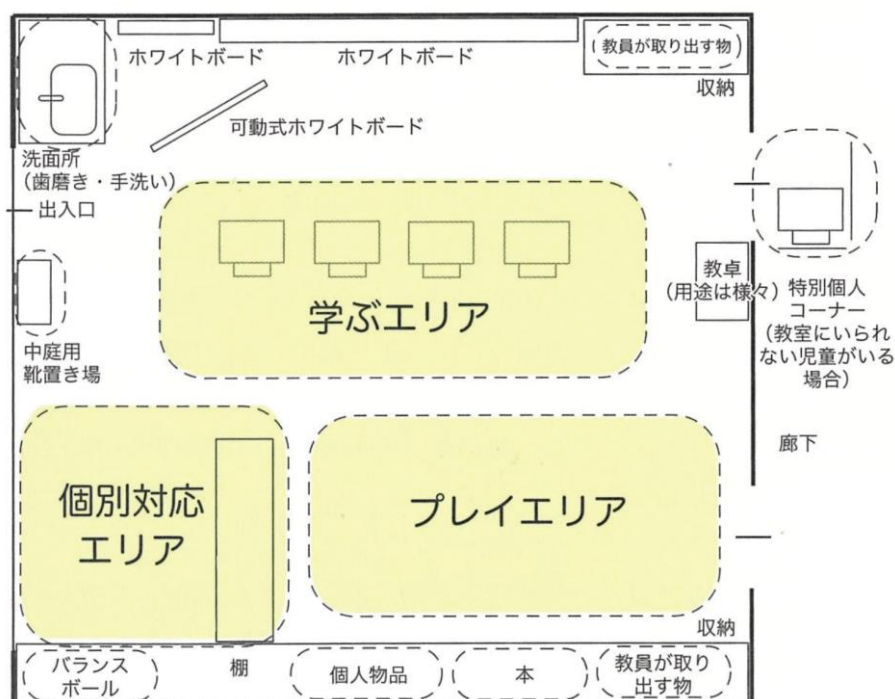
インクルーシブ教育(1)

方策Cの事例



通常の学級＋
特別支援学級

- ・全ての児童生徒が同じ教室で学ぶ（フルインクルーシブ）
- ・国内における実例が少ない（豊中市立南桜塚小学校や武蔵野東学園など）



参考：Make Inclusive Learning Spaces

インクルーシブ教育(1)

方策の選択にあたっての考え方

1) 現状での望ましい方策と、その背景・考え方(WGでの議論等)

- 「新しい学校づくり推進基本方針」において、全ての子供が共に学び合う「インクルーシブ教育」の実現を目指している。
- 支援を要する児童生徒数が増加しており、現状の教室数では対応できない学校がある。
- 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習が頻繁に行われているが、全ての児童生徒が同じ教室で学ぶ「フルインクルーシブ」を行うには、専門的な指導や個別の支援を行う人員の確保が必要となる。
- 子供たちが学校での過ごし方を選択できることが重要であるため、特別支援学級と通常の学級を近づけて、日常的な関わりを作ることが望ましい。
- 教室は、通常の学級と特別支援学級のどちらにも使用できるようなフレキシブルなつくりとし、学級数の増減等に応じて使い分けられることが望ましい。
- 集団の中で学ぶことが苦手な子供など、子供たちの教育的ニーズに合わせて個別に対応可能なクールダウンスペースや個別学習用の部屋やスペースを設けることも検討する。



子供たちが学校での過ごし方を選択できるよう
特別支援学級と通常の学級の教室を近接配置し、
日常的な関わりをつくることが望ましい

教室は学級数や人数の違いに対応できる
フレキシブルなつくりとすることが望ましい

一人ひとりの教育的ニーズに対応可能なスペースを設けるとともに、
教室内にクールダウンスペースなどを設けることが望ましい

2) 改築の場合

- 通常の学級と特別支援学級と近接させて配置するとともに、どちらにも対応できるフレキシブルな教室づくりを目指す。
- 教室近くに支援学級の子供たちの個別の教育的ニーズに対応可能なスペースを設けるとともに、教室内にもクールダウンスペースなどを設けることを検討する。

3) 改修の場合

- 可能な限り通常の学級と特別支援学級を近接させて配置する。教室やその周辺の諸室を活用し、できるだけクールダウンスペースや個別学習室を計画する。

4) 管理運営面の対応

- 特別支援学級と通常の学級の日常的な関わりが多くなるに伴い、通常の学級の教職員も支援が必要な子供たちと関わりが多くなるため、教職員同士の連携がより重要になる。
- 特別支援学級と通常の学級の間を密接にし将来的なフルインクルーシブ教育を目指すには、教職員の配置数も重要である。

5) 補助金・交付金の活用可能性

- 公立学校施設整備費補助金
- 学校施設環境改善交付金